

熊本・徳永直の会会報

第52号

徳永直選集第一巻

—編集作業進む—

小崎 太一

皆さんが本会報を手になされている二月中旬には、多分まだ二校の最中なのですが、昨年夏から始まった選集第一巻の編集作業も、いよいよ大詰めとなりました。四月中には分厚い新刊がドンと書店に並ぶ予定です。そして五月末のイベントまでの一ヶ月間、熊本は興奮のつぼと化すでしょう！

選集第一巻として、徳永の代表作『太陽のない街』と、他に以下の短篇を収めます（順不同）：『八年制』『彼岸』『飛行機小僧』『最初の記憶』『他人の中』『風』『こんにやく売り』『冬枯れ』『工場新聞』『眼』『あまり者』『あぶら照り』『日本人サトウ』『白い道』『戦争雑記』『麦の芽』『女の産地』『黒い輪』。

これらの作品を選んだ訳ですが、①熊本を舞台にしている作品を多く採りました。熊本は言うまでもなく徳永の故郷であり、今私たちの会が活動している場所です。本選集はもちろん日本全国に、そして世界に向けて発売しますが、購入される方のうち少なからぬ方が熊本在住だと想定されます。選集を手にとられた熊本の方に、郷土文学者としての徳永を再認識していただきたいと選びました。ま

た②徳永文学の全体像が伺えるよう、作品のバランスを考えました。今後選集は徳永の他の長篇などを選び、刊行を続ける予定ですが、この第一巻に収めた短篇からも徳永文学の流れが読みとれるはず

です。
編集作業は中村青史会長の指示と、杉野健一氏のリーダーシップのもとで、廣島正氏のアドバイスをいただきながら、楽しく進めてまいりました。参加者はみな徳永読書会のメンバーです（五十音順）：梶原定義・熊谷和信・鍛田吉豊・小崎・下城正臣・平岡加久子・福島明子・福永俱子・丸山幸子・吉岡恭子。月に一度、六年間作品を読み続けてきましたが（ほとんどがお喋りだったのですが）、これまでの区切り、そして次へとつながる助走として、この選集第一巻の出版を位置付けられると思います。

始めに書きましたように、本選集は四月中には発売します。一冊三千ちよつとと少々値は張りますが、会員の皆様には是非ご購入を、そしてよろしければ周りの方へのご推薦をお願いいたします。

第三十一回 孟宗忌案内

日時 二〇〇八年二月十五日（金）

場所 ① 13:00～13:30 徳永直文学碑前（泰勝寺入口）

② 14:30～16:00 熊本近代文学館ロビー

内容 ① 碑前祭（献酒・献花・経過報告）

② 講話と特別展示

講話「徳永直とその時代」（梶原定義）

特別展示 徳永直未発表小説原稿ほか

懇話会 18:00～20:00 坪井立町「鶴重」会費二千五百円

徳永直没後50年記念事業開催

同封のような記念事業を行ないます。主な内容は、「徳永直文学選集」の発刊と講演会です。それに映画上映も考えています。短篇選集は没後20年の折、文学碑建立にあわせて発行されました。文庫本型で七編が収められています。今回はA5判で一九編を収めます。徳永作品のいくつかのタイプをほぼカバーしたつもりです。編集作業は読書会の皆さんが携っています。六年間の直作品を読んできた実績がそれを可能にしていると思います。これまでに読んだ作品数は約六〇編になります。長編小説も読みたいのだが、本が手に入らないので、コピーをしなければいけいから、そう簡単には取り組めないのです。今回の出版で版を重ねるようだったら、続編を続々出して、長編も出版したいと思っています。

この出版は徳永直文学の再評価と普及に役立つと思いますし、埋れた名作の再発見につながると期待して下さい。

記念講演会は五月三十一日（土）です。東京から評論家の針生一郎氏と宮城の佐藤三千夫記念会事務局長の金野文彦氏、佐賀大学の浦田義和氏ほかを予定しています。

熊本朗読研究会のメンバーによる直作品の群読は、今年は孟宗忌にでなく五月三十一日の冒頭に持つてくるつもりです。

二〇〇八年会費納入について

今回は徳永直没後50年記念行事の募金と重なるので、次回会報発行の折に納入をお願いいたします。次回会報は五月三十一日の行事報告を主にしたもので七月には発行予定。その時に振替え用紙は同封します。

徳永直顕彰句

「最初の記憶」

竹著を作る掌のタコ霰降る

労働を猶語るべし「赤」の涙

「太陽のない街」

天高しピラひらひらと群衆に

谷底の町を隠すや冬の森

晩秋の長屋幾千夜の闇

凧や共同墓地の囁り泣き

凧や命尽きたる加代の声

旱天の魚叫ぶや「旗を護れ!!」

「戦争雑記」

蝸牛カタツムリとり日露戦争勝ちにけり

「馬」

夜更るまま泥中に馬坐り込む

麦田雅弘

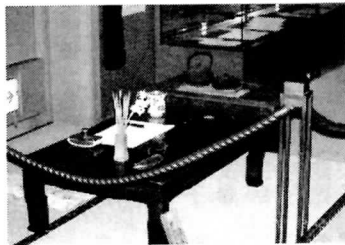
第三十回 孟宗忌報告

二〇〇七年二月二日は代休だった。午前一〇時半から約一時間、徳永直文学碑前で例年通りの碑前祭が行なわれた。献酒、献花のあと二年間の経過報告では、直作品の読書会がほぼ毎月続いていること、没後50年にあたる二〇〇八年には短編選集を熊本で刊行する予定であること、この場所を文学碑の森公園にしよとの提言等があった。続いて吉岡恭子さんによる「最初の記憶」の竹著売りの場の朗読があり、宮城の佐藤三千夫記念会からのメッセージの披露があった。

午後は一時半から熊本近代文学館にて講話と朗読会があった。「最初の記憶」を小川真人さん、「白い道」を池田義一さん、池田さとみさん、原武博之さん、「冬枯れ」を古木信子さん、小出史さん、森永浩子さんが朗読した。近代文学館では同時に徳永直のミニ展示も行われ、未発表書簡（岩藤雪夫宛）四通の展示もあった。



孟宗忌碑前祭に参加した人々



朗読会で挨拶する和田正隆熊本近代文学館友の会代表と熊本朗読研究会のメンバー

2007年度 決算書

2007年1月～12月(単位:円)

収 入		支 出	
年会費納入	150,000	事務所家賃(15,000×12ヶ月)	180,000
(一般 3,000×50名分)		通信費(電話代)	35,769
特別年会費	100,000	〃 切手、送料代	11,160
(特別会員 10,000×10名分)		会報発行 No.51(特集)	18,900
寄 附	54,220	孟宗忌 (2/12)	7,095
前年度分繰越	56,059	雑 費	2,000
		小 計	254,924
		次年度繰越	105,355
合 計	360,279	合 計	360,279

2008年1月21日

上記の通り相違ありません。 会計監査

半 塚 尋 子
西 田 光 子

会費納入者(二〇〇七年一月～十二月)
特別会員(一万円)

井上 栄次 岩本 税 上野美恵子 金野 文彦 上妻 四郎
國米 真市 杉野 健一 高光 協三 中村 青史 丸山 幸子
一般会員(三千円)

芦澤 峰子 池田 義一 泉 滋 岩下 恵治 上野 桂子
岡崎 信五 緒方 明子 緒方 直臣 海津 広子 梶原 定義
河原畑 広 菊川 有臣 吉良 初 熊懷 友春 小崎 太一
坂本美津子 沢田 博行 島寄 信子 下城 正臣 下川 浩哉

榎 ぶ 会 平 晋一郎 高田 隆子 高松 睦子 千葉 昌秋
柘植 周子 寺沢 孝子 中野紀美子 中松 健児 西川 悦子
西田 光子 原田 三郎 平岡加久子 広島 正 福島 明子
益子 薫 御村 春子 宮崎 啓子 宮崎 静夫 三吉 輝史
弥上 是子 八浪 哲郎 吉岡 恭子 吉岡 七郎 吉田 精一
吉永 惟昭 米原 尋子 佐田 恭子 寺岡 葵

寄附者
尾脇 芥子 梶原 定義 金野 文彦 大野 啓一 下川 浩哉
高光 協三 千葉 昌秋 丸山 幸子

▼熊本にはいろんな文化集団がある。一応喜んでいい現象だろう。
重なつて所属する者にとつては会費倒れの心配もある。本会も会
費値下げを考えねばなるまい。

▼会計監査でも指摘があつたが、事務所経費を減らす工夫をしなけ
ればと思う。しかし事務所が無いと困る。何かいい智慧はないも
のか。

▼徳永直の長女洋子さんが亡くなられたと伝え聞いた。ご冥福をお
祈りしたい。

熊本・徳永直の会 熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ど・激雲
〒八六〇―〇八五五 TEL・FAX〇九六―三四三―〇〇七二
郵便振替 〇一九四〇―二―一四九八

印刷所 俣昭和印刷 三四四―五二五―三四三―三八八六